2 学力向上アクションプラン

横浜市立大道小学校
令和３年度　学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

（1）学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
いきいき学び、かがやく大道っ子	言語能力　問題発見・解決能力 自分づくりに関する力

（2）中期取組目標

中 期 取 組 目 標
【安心】　～どの子も安心して生活できる学校を目指します。 ○児童支援体制が生きてはたらくものになっているか常にチェックし、チームで子どもを支援できるようにする。 ○子どもが自分や友達のよさを大切にし、互いに尊重し合える子の育成を図る。 【つながり】　～人や地域との大切にする教育活動を進めます。 ○子どもが主体的に学べるよう、問題解決的な学習の充実を図り、子ども同士のつながりを大切にする。 ○異学年同士がつながる学習（なかよし班の活動）を大切にし、優しい心や規範意識の醸成を図る。 ○地域の材、人がより有機的に学習とつながるよう教育課程の編成を工夫し、地域と共に生きる子の育成を図る。

（3）学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野		具 体 的 取 組
生きてはたらく知		①各教科で「書く」「読む」活動を積極的に取り入れ、的確に理解したり目的に応じて表現したりできるようにする。②授業の中で、ペア・グループ・学級等、形態を工夫しながら、話し合う場面を多く設定する。③子どもの気付きや問題意識を重視することで、学習に対する興味・関心を高める。
担当	教務部	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

（1）学力の概要と要因の分析

・学力面では、学年による結果の違いがあり、横浜市の平均を上回っている学年と下回っている学年の差が大きい。引き続き、知識・技能の基礎基本の定着が図れるように取り組んでいきたい。
・各教科とも身に付けた知識・技能を生かし、関連付けて考える「活用していく力」が伸びるように指導を進めていく必要がある。

（2）学習・生活意識調査の状況と分析

・学習意識・生活意識は総じて高く、市の平均を上回っている学年がほとんどである。例えば４年生を見ると、「勉強は好きですか？」という質問に対し、「好き」と答えた児童が 73%に上る。（市平均 52%）「授業ではノートをていねいに工夫して書いていますか。」という質問にもよい結果が出ている。反面、「授業では自分の考えを発表していますか？」という質問には、「よくしている」という回答が市平均を下回っている。これらの結果から、本校の児童は、安心できる環境の中で楽しく学習することができており、真面目に取り組んでいるが、自分の考えを表現したり、複数の事柄を関連付けて考えたりする力に課題があることが分かる。

（3）教科学習の状況

○国語：「書く能力」「読む能力」に課題がある。事柄の順序に沿って書いたり、知らせたい内容が伝わるようにふさわしい言葉を用いて書くこと、内容の大体読んだり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら読むことなどに課題がある。そのことが、「活用していく力」にも課題があることにつながっていると考えられる。

３ 令和３年度　学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
１年	感じたことを言葉にする力 事実を大まかに捉える力 問題を理解する力	○分かったこと、感じたこと、伝えたいことなどを書いたり話したりする活動を多く取り入れる。 ○各教科で自分の考えを伝え合う場面を増やし、互いに学び合う楽しさを味わうようにする。	
２年		○各教科で、体験したことや既習事項を生かして話し合ったり、説明する文章を書いたりする活動を取り入れる。 ○大事だと思ったことを確かめたり、関連付けたりしながら話し合う。	
３年	伝える内容を明確にする力 観察する力・洞察する力 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢	○各教科で説明する文章や記録する文章を書くなどして、分かったことや自分の考えを表現できるようにする。 ○根拠を明確にしたり、まとめたり、補足したりしながら話し合えるようにする。	
４年		○各教科で説明・記録する文章を書くなどの表現活動を大切にするとともに、意見を交流し、自分と友達の考えの違いに気付くような場面を大切にする。 ○既習事項を活用しながら考える学習を計画的に行う。	
５年	事実等を解釈し、自分の考えを形成する力 問題を認識する力 意思決定する力	○自分の考えを持ち、相手を意識して分かりやすく書いたり、話したりするなどの活動を大切にする。 ○複数の物事・事象を関連付けたり、分類・整理したりして考えるような場面を多く設定する。	
６年		○事実と考えとを区別し、相手を意識しながら自分の考えが伝わるように書く。 ○他者の考えを聞き、意見の相違点に気付きながら考えを広げたり、深めたりできるよう、話し合いの場を設ける。	
個別支援学級	基本的な生活習慣をつくる態度 感じたことを言葉にする力	○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し・書き言葉、表情、仕草等、発達段階に応じたコミュニケーション手段を使い、積極的に活動に参加する。 ○子どもに応じた分かりやすい伝え方をするなど、言語環境の整備を図る。	